

### 1. 中国の衣類輸出、周辺国の追い上げで苦戦

今年1～7月の中国の衣類(完成品)と付属品の輸出額は前年同期比5.79%増の約1002億ドルだった。伸び率は、昨年同期と比較し7.71ポイント下落。今年中国の衣類輸出は安定成長を継続し、伸び幅は10%以内と予想される。現在、中国の衣類業界はさまざまな圧力を受けている。中国服装協会関係者によると、**ベトナム、カンボジア、インドネシアなど周辺国の繊維業が急速に発達**し、中国の衣類輸出における競争上の優位が弱まった。生産コストの大幅な上昇により完成品の価格が上がり、価格の優位が消失したという。また、業界の過剰な生産能力がイノベーションを阻み、製品の付加価値が上がっていない。先進国市場への輸出依存度が高いのも問題という。

### 2. 縫製工場6箇所、労働者たちが失神を起こす

首都の Vattanac 工業団地Ⅱにある縫製工場の6箇所において、2日間に130人の労働者も労働者が失神した。この件について政府は、工場の換気の悪さというよりも、労働者達の健康管理の足りなさ、ヒステリーのおこしやすさの原因があるとした。Dangkor 地区 Kraing Pongro コミュニティの警察長 Teun Bunthen 氏は、「彼らの職場で、薬品の匂いが充満したり、他の不安や問題を感じることはありませんでした」と話した。労務省の職員は、「換気の悪さや化学薬品が原因となっただけではなく、同僚達が倒れていくのを目にした労働者達が、”集団心因性疾患”を起こしたのだ」としている。しかし Pong Teuk ヘルスセンターに勤める Veng Vuthy 氏は、「労働者達は、科薬品の強い匂いを訴えていました。他にも、気絶の原因となった事柄は多くあるはずです」と主張している。

### 3. 縫製工場労働者失神の原因を探るため、チーム発足

8/19、労務省は、工場で起こる労働者の失神件数が増え続けている件を受けて、工場の労働環境を調査し原因を特定するためのチームを組織したことを発表した。労務省管轄の Occupational Health and Safety Department に所属する Leng Tong 氏は、「労働者達が失神を起こすのは、工場で扱っている化学薬品のせいではなく、残業のしすぎや気候などが関係しているのではないかと考えています。新しく作られたこのチームが、失神の原因をより明確にし、対策を立てます」と話した。Free Trade Union は、「プノンペンだけで、今年すでに**1100人以上**の労働者が作務中に失神を起こしている。より詳細な調査を行いきちんと改善するよう、政府に求める」と発言をしている。

### 4. 失神者を出す縫製工場に、罰金を

8/20、政府は、労働者が失神を起こさないようきちんと職場を管理するよう、縫製工場に対して厳重注意を行った。Ith Sam Heng 氏は、「もし厳重注意に従って改善ができないようであれば、罰金を科すなどの手段も政府は考えています。安全面、衛生面に関して、私達は厳しい態度で見たいと思っています」と話した。プノンペンの Vattanac 工業団地Ⅱでは、先週およそ130人の労働者が失神を起こした。しかし Garment Manufacturers Association in Cambodia の事務局長 Ken Loo 氏は、「もし労働者達が本当に”換気の悪さ”や”衛生面の欠如”などを理由に倒れているのであれば、罰金は正しい判断でしょう。しかし、彼らの失神がそういった理由ではなく、なにか別の外のものに原因があるとすれば、罰金はアンフェアです。労働者達がきちんと栄養のある食事をとっていないこと、集団心理なども原因としてあるのではないのでしょうか」と話す。

### 5. スバイリエン州のストライキで、労働組合のリーダーが逮捕される

8/19、Svay rieng 州のある縫製工場では、労働者達が平和的にストライキを行っていた。しかし一方で、労働組合のリーダーの1人は短時間だが警察に拘留されていた。ストライキに参加していた Pum Sokunthy さんの話によると、Collective Union of Movement of Workers (CUMW) Svay Rieng 州支店の代表であった25歳の Tun Saren さんが拘留されたのは朝の9時半。You Li International (Cambodia)社に勤める数百人の労働者達が、工場内部で行われた交渉の決裂を聞きつけ、国道1号線をブロックした直後であった。Sokunthy さんは、「他の組合員から、Tun Saren が連れて行かれたと聞いたのは、私や CUMW の代表達が、労務省や市議と話し合いをしている際中でした。話し合いは中断しました。そのあと、彼を解放させるため労働者達は警察署まで行進をしました。解放がなかったのは、午後1時半頃です」と話している。

このストライキは5日目に突入したところだったが、労働者達が求めた10箇条のうち2つが承認されたところで、ストライキはほぼ終結の兆しを見せていた。解放されたあと Tun Saren さんはポスト紙に、「私を捕まえて、ストライキをやめさせるよう警察は命令してきました。警察は、用意してきた書類にサインをするように言い、道路のブロックやストライキを

必ずやめさせると約束しろ、と言ってきました。でも私は屈しませんでした」と話す。CUMWの代表Pav Sina氏は、「Sarenさんが拘留されたのは、ストライキに参加していた人々のやる気を削ぐためでしょう。労働組合の代表者は、たびたびターゲットにされてしまいます。労働組合は、ただ労働者を守りたいだけで活動しているのに、こういった脅威に晒されてしまいます」と話す。Svay Rieng 州の労務局からのコメントはまだない。

## 6. コンボンチュナムでは労働者達が道路を閉鎖

8/18、Kampong Chhnang 州の縫製工場で働く数百人の労働者達が、国道 5 号線を 4 時間に渡ってブロックした。Khmer Union Federation of Workers Spirit の職員 Sous Sokha 氏は、「昨日は、Jiun Ye 縫製工場の労働者達が始めたストライキの 2 日目にあたる日でした。彼らは、皆勤ボーナス月額 15 ドルなど、労働状況の改善を要求していました。警備員との軽い取っ組み合いなどもあったようですが、負傷者は出ていません」と話した。地区警察長の Doung Hong 氏は、「取っ組み合いが起こったのは、私達が市民を守るためでした。私も、早くこの騒ぎを収めるため交渉に参加するつもりです」と話した。労働者代表の Yin Chinreoun さんは、「もし私達の要求を叶えてくれないのであれば、今日もストライキをすることになるでしょう」と話すしている。

## 7. ストライキにより、解雇に直面する労働者達

Kampong Chhnang にある縫製工場でストライキを行っていた労働者達が、今日も引き続き活動を続けるようであればクビにする、といったことを工場マネージャーは話した。Jiun Ye 縫製工場に勤めているおよそ 100 人の労働者達が、トラックやトクトックに乗ってプノンペンにやってきました。3 週間以上もストライキを行っていた労働者達に対して、裁判所は「48 時間以内に職場に戻るように」との命令を 8/20 の時点で下していた。労働者を代表する Yin Chinreoun さんは、「もうこれ以上待ってられません。皆勤手当月額 15 ドルを早く払って欲しい」と話す。しかし Jiun Ye 工場統括マネージャーの Nget Resmey さんは、「私達はもう 3 度、彼らと話し合う場を持ちましたが、毎回その場を放棄して出て行ってしまいます。もし労働者達が今日も出勤してこないようなら、仲裁審議会もこれ以上訴訟に取り合わないそうです」と話した。

## 8. 置き去りにされた、移住労働者達

200 人近いカンボジア人縫製労働者がブローカーに騙されて、バンコク南部に取り残されてしまった、とのことだ。これは新たな労働システムが生み出した最初の被害者達だと、人権の専門家は話す。タイムディアの報道によると、8/19、タイ南部に連れて行かれた 180 人のカンボジア人移住者達は、当初ブローカーから 1 日 300 バーツ(およそ 9 ドル)の賃金を約束されていたという。ポイペトのイミグレーションオフィスが発表したところによると、雇用のための書類を作成する、という口実で労働者達は連れて行かれたが、8/20 の朝 2 時に草むらのなかに下ろされ、取り残された。置き去りにされたうち何人かはパスポートを所有しており、タイへの移住は合法だと考えていたようだ。しかし、移住労働についてはまだ近隣諸国でははっきりとしたシステムが出来上がっておらず、6 月にタイとカンボジアで覚書が調印されたものの、その際に発表された移住労働のために踏むべきシステムは、まだ実行には移されていない。その代わりにカンボジア人達は、タイの雇用者が臨時労働のために手続きをしてくれるのでそれに頼って、リスクな渡航を行っている。

アメリカ国際開発庁が出資している団体、Counter-Trafficking in Persons Project カンボジア局代表の Sara Piazzano 氏は、「現在、数十万いるカンボジア人労働者達は、実際にいつ捕まって強制帰国をさせられても、おかしくない状態です。タイとカンボジア、両国の政府が移住労働に関する協定を早く結ばなくてははいけません」と話した。しかし外務省によると、現行のグレーな渡航システムでも、カンボジア人労働者はどんどんタイへ戻っていつているようだ。現在、42 万以上のカンボジア人がタイで仕事をしており、27 万人が臨時渡航の状態にある。この数値はこれまででも最大の数値のようだ。クーデターが起こる以前は 45 万人の正式な手続きを踏まずにタイで働いており、合法的書類を所有していたのは 9 万人ほどであった。

## 9. 教職員の賃金、9月からアップ予定

フン・セン首相の発表によると、全国の教職員およそ 11 万人の賃金が、賃金見直しの一貫として、9 月から 4 月の間に賃上げされるとのことだ。また「まずは少ない賃金で頑張っている政府関係者の賃金をあげましょう」とも話し、賃金見直しの最初の対象者は政治家であることも付け加えた。

Cambodian Independent Teachers' Association の代表 Rong Chuon 氏は、教員への最低賃金 250 ドルの実現を求めて活動に参加した経験のある人物だ。彼は「賃金上がることに、大変嬉しく感じています。しかし十分満たされた生活を送るためにはまだまだ足りない額でしょう。インフレがまだまだ続いている状況なので、今回の見直しの額で私達の生活が劇的に変わることはないでしょう」と彼は話す。

## 10. “赤ちゃん工場”の犯人はカンボジアに滞在

バンコクで人身売買を企んでいたと疑いが持たれている日本人男性について、彼はタイの政府職員を、代理出産で産ませた子供 4 人がいるカンボジアの施設に招待したようだ。記者会見のなかでタイ警察は、「男性の”コーディネーター”と称される人物から今回のオファーはありました。カンボジアで育てている赤ん坊達の調査を行うため、すぐにチームが派遣されるでしょう」と発表した。

シゲタ ミツオキ氏(24)は、「子供をたくさん作って、アジア圏域で売りさばっているのでは、といった疑い」が、現在持たれている。今月はじめ、タイ警察はシゲタさんがバンコクで借りているアパートに潜入し、代理出産で産ませた 9 人の赤ん坊と、妊娠している女性 1 人を発見した。出生届も同時に発見され、シゲタ氏はタイ国内に他にも 6 人の赤ん坊を育てていることが明らかになった。警察は、シゲタ氏が卵子提供を受けて体外受精で産ませた子供が、タイ国内に少なくとも 15 人はいると考えている。また、代理母も 11 人いるとされている。警察の潜入を耳にしたシゲタ氏は、マカオに飛んだと見られている。

タイのイミグレーションオフィサーによると、シゲタ氏は 2012 年以降、40 回以上もタイを訪れており、国外へ出るとき赤ん坊を連れていくことも数度あったという。赤ん坊のうち、生後 6 ヶ月から 1 年に値する 11 人が、現在タイの軍事政府の管理下に置かれている。また、シゲタ氏はカンボジアへ多額の投資を行っており、カンボジアパスポートを所有している。赤ん坊のうち 4 人は、カンボジア国内で育てられているようだ。

商務省は、シゲタミツオキという名前で登録しているビジネスマンは、カンボジアでは Sen Sok 地区と Chamkarmon 地区内、合わせて 4 人登録されている、と発表。しかし 4 人ともが同じ携帯番号で登録しており、この番号には誰も出なかったということだ。しかしシゲタ氏に関するそれ以上の調査は、まだ政府は行っていないという。「今回の件で、私達はまだまだ何もしない情報を得ていません。しかしタイ警察は調査をすすめるべきですし、私達もちろんそれに協力します」と反人身売買団体に所属する Chhin Da さんは話す。国家警察や、パスポートオフィスからのコメントはまだない。

## 11. 最近の外資の進出状況

### ・タイ塗料大手 T O A 、カンボジア工場計画

9/09、タイの塗料大手 TOA グループは、東南アジア諸国連合 (ASEAN) で事業を拡張する計画の一環として、カンボジアとインドネシアに工場を設置する計画を明らかにした。

### ・タマホーム、プノンペンでホテル、アパート 3 館体制へ

住宅大手タマホームが、カンボジアの首都プノンペンで事業を拡大している。昨年 12 月にサービスアパートメント、6 月に中心部の高級オフィスビル内にダイニングバー兼ホテルを開業。郊外のプノンペン経済特区 (PPSEZ) 内にホテルを設ける計画もある。3 館体制として日本人在住者や旅行者の需要を取り込みながら、将来は本業である住宅や街づくりへの展開も視野に入れていく。

### ・タイの日本食チェーン、カンボジアなど展開

タイで日本食レストランチェーン「富士」を展開するフジグループは、年内にもカンボジアとベトナムに出店する計画を明らかにした。

以上